

2016 年末に「AKI（急性腎障害）診療ガイドライン 2016」が発刊され、ほぼ 2 年半が経ちました。国内初のガイドラインということもあり、この短い間に AKI は一般的な用語として広まりました。そして、① AKI は慢性腎臓病（CKD）の重要な要因である、② CKD や糖尿病があると AKI の発症リスクが高まる、③ 非ステロイド系消炎鎮痛薬、利尿薬、RAS 阻害薬を併用すると AKI の発症リスクが高まる、などの重要な情報は、以前よりも普及している印象です。

本特集では、作成に関わった先生方を中心に、ガイドライン発表後に明らかになった成績も含め、現時点における AKI 診療のエビデンスと今後の課題をまとめていただきました。しかし実際は、入院中に AKI が発症しても、主治医からか

かりつけ医の紹介状には AKI の長期フォローに関する申し送りが書かれることはまれのように思われます。さらに、集中治療室（ICU）で持続的腎代替療法を受けると、退室後にサルコペニア・フレイルのリスクが高まる post-intensive care syndrome（PICS）を発症しやすいことも周知されておらず、さらなる啓蒙が必要と思われます。

現在、世界の AKI 有病者数は毎年 1,330 万人と推計されており、わが国でも毎年多くの AKI が発症していることが予測されます。令和の時代はビッグデータがキーワードですので、わが国に本格的な AKI データベースが作られ、超高齢者の AKI を含め、標準化医療と個別化医療がそれぞれ確立されることを期待したいと思います。

（加藤明彦）

2019 年 (Vol. 35) 特集のご案内

- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| No.① 透析患者の糖尿病管理の新展開 | No. 7 CKD 患者におけるがん化学療法 |
| No.② 透析患者における電解質・酸塩基平衡異常—透析液を含めて | —透析患者を中心に〔増刊号〕 |
| No.③ 慢性腎臓病の看護実践をリフレクションする | No. 8 既存のガイドラインを透析患者にどう活用するか |
| No.④ 透析患者の残腎機能 | No. 9 標準血液透析を再考する—最良の透析処方・管理技術とは |
| No.⑤ 透析工医学の最前線 | |
| No.⑥ AKI 診療のエビデンスと課題 | （既刊は○） |

臨牀透析® Vol.35 No.6

© 2019 年 6 月 10 日発行
定価：（本体 2,600 円＋税）

年間予約購読は前金にて弊社あるいは書店宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、弊社または書店までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也
発行所 株式会社 日本メディカルセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-64 神保町協和ビル
営業直通電話 (03) 3291-3901 (代) FAX (03) 3291-3904
編集直通電話 (03) 3291-3971 (代) FAX (03) 3291-3377
e-mail dialysis@nmckk.co.jp
URL <http://www.nmckk.jp>
郵便振替 00110-2-80695
印刷所 シナノ印刷株式会社

・ Published by Nihon Medical Center, Inc. ©2019, Printed in Japan
・ 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は（株）日本メディカルセンターが保有します。
・ JCOPY®＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞
本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構（☎ 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail : info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。

■ 広告申込所／株式会社 文栄社 〒113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1 電話 (03) 3814-8541